

平素は本校の教育に深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。先般の大阪北部地震、台風21号で被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

さて、4月に第三学年を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。この調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。調査結果については調査の目的を達成するため、教育の改善、各生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えております。ご家庭におかれましても今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

平成30年度全国学力・学習状況調査の本校の分析結果

1. 教科に関する調査の分析

□概要

- 国語A（主として「知識」に関する問題） 大阪府平均正答率をやや下回っています。
- 国語B（主として「活用」に関する問題） 大阪府平均正答率をやや下回っています。
- 数学A（主として「知識」に関する問題） 大阪府平均正答率を下回っています。
- 数学B（主として「活用」に関する問題） 大阪府平均正答率を下回っています。
- 理科（「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題）
大阪府平均正答率をやや下回っています。

（1）国語《課題と今後の指導改善点について》

国語A・Bともに全国平均は下回っていますが、今まで行ってきた本文の丁寧な読み取りや自分の意見や考えを書く活動、相手の意見をしっかり聞く活動などの成果が少しずつ表れています。しかし、「書く能力」や「話す・聞く能力」では全国平均との隔りがあり、授業内での工夫が求められます。今後は授業内で書く活動や話す活動を行う際、読み手や聞き手を意識させながら自分の考えを表現する活動を積極的に取り入れていき、生徒たちの力を伸ばしていきたいと考えます。

（2）数学《課題と今後の指導改善点について》

【数学A】事象について、説明したものから正しい記述を選択する問題では全国比に比べ正答率が+10ポイント高く、授業中の言語活動や対話的活動、文章でのふり返しなどの成果と考えられます。空間での平面と直線の位置関係についての問題ではICTの活用によるわかりやすい空間認知の成果と考えます。しかし、「式に表す」ということを含め、数式の意味を理解すること全般に課題があり、数字と文字によって表されている式について数の部分が何を表し文字の部分は何を表しているのかが定着していないと思われます。

【数学B】文字を使って、成り立つことを説明することに課題があります。感覚的に理解はできていても、数式や文字で表すと苦手になる傾向がみられます。

【総括】機械的な計算には大きな課題がある一方で、資料の読み取りや考え方についての正しい説明文の選択など、ICTの活用や対話的学習での成果も見られました。このことから、活用力の基礎については、成果が出ていることがわかります。しかし、計算の基

礎が定着していないため、授業で身につけたことを家庭学習、反復練習により定着を図っていきます。授業では、文字を使った問題や証明することに大きな課題があるため、「数式のみで表されたもの」が何を伝えているのか、自分で考え、表現する時間を設けていきます。具体的には授業の中で、活用の基礎＋応用を取り扱う時間をより多く設け、問題に触れる時間を増やしていきます。

(3) 理科《課題と今後の指導改善点について》

評価の観点からみると、関心・意欲・態度の平均正答率が府より10ポイント高く、観察・技能の平均正答率が府を少し上回っていました。このことから、実験での操作方法や結果の書き方などが習得できていると考えられます。また、関心・意欲・態度の問題の中で、自分自身の疑問を書くという問題は、解答した生徒全員が正解でした。このことから、振り返りや実験の考察において自分の言葉で書く機会を多く設定している成果だと考えられます。しかし、思考・表現の平均正答率が府よりも下回った記述式問題において、実験結果より他の操作方法を推論するという点に関してはまだ課題があります。

授業では、課題プリントや基礎知識定着を増やしていき、思考・表現の向上のために定着した基礎知識を使って自分の言葉で書くだけでなく、発表して共有する機会を増やしていきます。実験は多くなりましたが決められた方法だけではなく自分で実験方法を考えて正しい結果にするにはどうすべきかと考える力も身につけさせる必要があります。

2. 生活習慣や学習環境などに関する調査の傾向

○「家で学校の宿題をする」という質問に「当てはまる」と答えた生徒の割合、授業以外に普段1日当たり30分以上読書をする生徒の割合は年々増加傾向にあります。「家で学校の授業の予習・復習をする」「家で自分で計画的に勉強をする」という質問に「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」「学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)の勉強時間」が30分未満である生徒の割合は、全国平均に比べて差があります。

○「将来の夢や目標をもっている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「自分には良いところがあると思う」と答えた生徒の割合は29年度と比べ高くなり、「学校の規則を守っている」「先生はあなたのようによいところを認めてくれていると思う」と回答している生徒の割合はやや低くなっています。

3. まとめ

今後も知識の定着を深め、学習意欲を高める授業の改善を行い「学ぶ雰囲気」の確立を行ってまいります。そして、規範意識に関わる結果については、本校としての課題と捉えています。学校全校で昼休み、授業と授業の間の休み時間等で、見守り活動を行っていき引き続き子どもの心に寄り添うよう努めてまいります。